IV 中学部の教育課程

1 中学部の教育目標

- (1) 健康に留意し、丈夫な心と体をつくる。(元気な生徒)
- (2) 自分の力で身の回りのことができるようにする。(自分のことは自分でできる生徒)
- (3) 明るく情操豊かな心を育てる。(明るく思いやりのある生徒)
- (4) 自分で考えて行動し、最後まで頑張り抜く力を育てる。(最後まで頑張る生徒)
- (5) 社会生活への関心を深め、積極的に活動する態度を育てる。(助け合い、協力する生徒)

2 教育課程の編成方針

- (1) 本校の教育目標及び学部目標の実現に必要な教育の内容等を、特別活動を中心とした教科横断的な視点で組み立てていくことに配慮した編成を行う。
- (2) 一人一人の教育的ニーズに応じた「個別の指導計画」・「個別の教育支援計画」を効果的に活用し、小学校、中学校及び小学部、高等部との「学びの連続性」「途切れのない一貫した指導・支援」に配慮した教育課程を編成する。
- (3) 生徒の自立と社会参加・貢献に向け、生涯学習への意欲や、生活年齢を大切にした学校生活を通して、豊かな生活を営むことができるよう合理的配慮に基づいた編成を行う。
- (4) 生徒の根拠ある実態把握を行い、「教科別」を基本とした教育課程を主軸に、特に必要がある場合は、「各教科等を合わせた指導」や学習指導要領の「重複障害者等に関する教育課程の取り扱い」に基づいた編成を行う。
- (5) 道徳科は、道徳の時間を要とし教育活動全体と合わせて指導し、感動する心と豊かな感性、生命を尊重する心や他者を思いやる心、善悪を判断できる心等の育成を図れるように編成する。
- (6) 健康・安全教育、性教育については、生徒の生活年齢及び発達段階に即し、自他の心と体を大切に生活する態度の基礎を養うよう教育課程に位置づけ編成する。
- (7) 豊かな人間性や社会性を育てるために、地域や近隣校との交流及び共同学習を実施できるよう教育課程に位置づけ、編成する。
- (8) 特別活動は、具体的な活動や体験を通して、生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしようとする態度を養えるよう編成する。
- (9) キャリア教育の視点から、自立・社会参加・貢献をめざして、幼稚部、小学部、高等部と連携を密にし、継続的な進路指導体制のとれる教育課程を編成する。又、キャリア・パスポートを作成、活用することで、学習の振り返りや学びの定着を図れるようにする。
- (10) 個々の発達段階等に応じたICT機器の活用や、情報モラルの指導を適切に位置づけた情報教育の充実を図れるよう編成する。
- (11) 外国語を通して、外国語や外国の文化に親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の基礎を養う。また、生徒の発達段階に即した内容でALTを活用する。
- (12) 自立活動の指導は、その目的を踏まえ、自立活動の時間はもとより、教育活動全体を通じて行う。指導計画の作成にあたっては、生徒個々の障害の状態や生活年齢及び発達段階等に応じた具体的な指導目標及び指導内容を設定する。
- (13) 「各教科等を合わせた指導」を選択する場合は、「教科別の指導」と関連づけ、学習指導要領の知的障害教育にかかる各教科等の目標の達成及び内容等を合わせた指導計画を作成する。

3 各教科等の指導の重点

(1) 各教科

【知識及び技能／思考力、判断力、表現力等／学びに向かう力、人間性等の順で表記】

①国語

- ・文字に関心を持たせ、簡単な語や文など書く力を伸ばす。
- ・見聞きしたことや経験したこと、自分の気持ちなどを伝える力を伸ばす。
- ・日常生活や地域社会において、人の話を聞き、言葉への興味・関心を広げる。

②社会

- ・様々な体験や地図、インターネット、写真や動画、具体物などの資料を通して情報を集めたり、集めた情報を色分けや記号・絵等で示したり、言葉や文字を使用したりして、新聞やポスターにまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・自分と社会との関連を考えながら選択したことを説明したり、話し合ったり、図表などに表すことができるようにする。
- ・円滑で快適な生活をしようとする意欲を持ち、地域の発展のために周囲と協力しようとする態度を養う。

③数学

- ・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、事象を数学的に処理する技能を身に付けるようにする。
- ・身の回りの事象を数学的に考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質に気付き数学的に考察する力、事象を数学的に表現する力を養う。
- ・数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、数学で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

④理科

- ・自然の事物・現象についての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
- ・簡単な観察、実験を行い、自然の事物、現象について考える力を養う。
- ・自然を愛する心情を養うとともに、学んだことを主体的に日常生活に生かそうとする態度を養う。

⑤音楽

- ・様々な音楽活動を通して、音楽の構造を知り、音楽で表現するために必要な技能を身に付けられるようにする。
- ・音楽表現を考えることや、音や音楽の持つよさを感じながら、聴いたり表現したりすることができるようにする。
- ・様々な音楽に興味関心を広げ、自己を表現し他者との関わりを深めるなど、進んで音楽に親しみ、生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

⑥美術

- ・表わしたいことに合わせて、材料や用具を工夫して使えるようにする。
- ・のびのびと発想し構想するとともに、自他の作品に親しむことができるようにする。
- ・楽しく創造活動に取り組み、自分の見方や感じ方に基づき、より豊かに美術に関われるようにする。

⑦保健体育

- ・各種の運動を行うことによって体力や技能を高め、健康・安全について理解する。
- ・各種の運動や健康・安全について、自分の課題を知り、目標達成に向け努力する力を育てる。
- ・生涯にわたって運動に親しむことや、自他の心と体を大切にすることを育てる。

⑧職業・家庭

- ・生活や職業に対して関心を持ち、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。
- ・よりよい生活を目指して、自分なりに解決しようとする力を養う。
- ・よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。

⑨外国語

- ・外国語を用いた活動を通して、身近な生活で見聞きする外国語に興味や関心をもち、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。
- ・身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして表現力を養う。
- ・外国語を通して、外国語やその背景にある文化の多様性を知り、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(2) 道徳科

- ・自分でできることを自らすすんで行き、安全に気をつけ、よく考えて行動しようとする、態度を育てる。
- ・家族など生活を支えてくれる人々へ感謝の気持ちを持ち、友達と相互理解に努め、助け合う姿勢を育てる。
- ・家庭や学校、学級で約束やきまりを理解し、守ろうとする態度を養う。
- ・自然の素晴らしさを知り、動植物に触れ、生命あるものを大切にすることを育てる。

(3) 総合的な学習の時間

- ・校内実習などの体験活動や探求的な学習を通して、集団の中で話し合い、自ら課題解決に必要な知識や技能を身に付ける。
- ・実社会や実生活の中から問いを見つけ、自ら課題を立て調べるなど、まとめ・表現することができる。
- ・探求的な学習に主体的・協同的に取り組もうとし、互いの良さを生かしながら地域社会へ参画しようとする態度を養う。

[指導の形態]

- ・生徒の実態や生活年齢及び発達段階に応じ、創意工夫を生かした学習を行う。
- ・年間を通して行き、課題に応じて学級、学年、学部全体で学習する。

(4) 特別活動

- ・様々な体験活動を通して、集団活動の意義や必要性のほか、自己の生活の充実・向上や自己実現に必要な情報や方法を理解することができる。よりよい生活のために合意形成の図り方などの技能を身に付ける。
- ・所属する様々な集団の中で問題解決に取り組み意思決定を行うことができる。
- ・生徒個々の自発性や可能性を伸ばし、他者と協同することで、望ましい人間関係や社会性を育てる。
- ・各教科等の学びを生徒個々のレベルに合わせ、統合し深めることができる。

(5) 自立活動

- ・生徒一人一人が自立した行動を行えるように、自己認識、環境の認知、身辺処理、歩行、移動、コミュニケーション活動、作業等における障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服し、心身の調和的発達を促す。
 - ①健康の保持・・・日常生活を行うために必要なリズムや生活習慣の形成、健康状態の維持・改善を図る。
 - ②心理的な安定・・・情緒の安定を図り、落ち着いて学校生活を送ることができるようにする。
 - ③人間関係の形成・・・自己を理解し、周りの人との協力を通して集団活動に参加できるようにする。
 - ④環境の把握・・・生徒一人一人が環境を認識し、行動ができるようにする。
 - ⑤身体の動き・・・日常生活に必要な基本的能力を習得できるようにする。
 - ⑥コミュニケーション・・・生徒個々の表現で意見交換ができる能力を身に付けるようにする。

4 交流及び共同学習の重点

- ・近隣校及び他校の同世代の仲間たちや地域の人々との交流及び共同学習を通して、互いに関心を持ち理解し合う態度と、豊かな人間性、社会性を育てる。

5 生徒指導の重点

- ・生徒一人一人が自己の存在感を実感し、よりよい人間関係を育み、有意義で充実した学校生活を送り、現在及び将来における自己実現を図っていくことができる資質・能力を養う。

6 キャリア教育の重点

- (1) 教育活動全般を通して、生徒の資質・能力をできる限り引き出し、円滑に社会参加できるようにする。
- (2) 校内における実習や体験活動等を通して、働くことの大切さを理解し、最後まで頑張る態度や意欲を養う。

7 生涯学習への意欲を高める指導の重点

- ・地域や各種団体と連携して学習機会に関する情報の提供に努め、生涯を通じてスポーツや文化芸術活動に親しむ態度を養う。

8 ICT 機器利活用の重点

- (1) 障害の状態や特性等に応じて、デジタル機器（電子黒板・タブレット、PC 等の ICT 機器）を効果的に活用できるようにする。
- (2) 調べ学習や意思伝達、時間管理や活動の見通し、写真や動画を用いた活動の振り返りや自己評価など、目的に応じて ICT を活用し各教科の学習内容の理解や定着を図れるようにする。

9 安全教育の重点

- (1) 健康で安全な生活を営むのに必要な知識を身に付け行動できるよう教育活動全体で指導する。
- (2) 学校・家庭等日常生活の様々な場面で危険を理解・判断し、安全な行動がとれるように指導する。
- (3) 交通ルールや公共のマナーについて正しく理解し、安全で適切な行動がとれるようにする。